

3 駅まえデザインのコンセプト

押上北口の魅力ある顔づくりに向けて、これから新たに生み出される“駅まえ”空間のコンセプトとして、以下の3つの方針を柱とします。

地域で育み、地域に愛される すみだの顔となる“駅まえ”



みどり豊かで、やすらぎのある駅まえ

自然を身近に感じ、木陰で休めるなど、居心地がよく、季節の移ろいを感じる緑豊かな空間づくりが望ましい。
多様な過ごし方ができる場としていくことで、やすらぎのある風景を生み出します。



<ワークショップで出されたアイデア>

- うるおいがある居心地よい空間
(視線の抜け・緑陰・芝生・噴水)
- 四季を感じる緑
- 気軽に緑に触れ合える設え(花壇など)
- 自然に触れる(どろんこ遊び、水遊びなど)
- ゆっくりできるベンチ・芝生
- 畳を敷いた和の高架下空間でくつろぐ
- 隅田公園・ミズマチからのグリーンロード
- ヒューマンスケールなまち
- 騒音やゴミの対策は必須



人が憩い、交流する駅まえ

車や人が通行するだけの“駅まえ”ではなく、子どもや高齢者など多世代が安心して憩うことができ、高架下や店舗等と連続した“駅まえ”空間の形成が望ましい。
地域の人や店が出店するイベントの実施など、地域に寄り添い、地域で運営する“駅まえ”活用の仕組みを模索していきます。



<ワークショップで出されたアイデア>

- 子どもの遊び環境(広場、高架下)
- 親の見守りスペース
- ちょっと時間を過ごせる高架下
- キッチンカーでランチを買って食べられる場
- 店舗・施設からのにじみだし
- 地域の店や人が出るイベント・墨田区ならではの(ヨガ・フリーマーケット・高架下マルシェ)
- 静かで華のあるイベント
(ジャズ演奏・シャボン玉・休日朝市・合唱)
- たまに大きなイベント
(盆踊り・アウトドア体験など)
- イベント規模に合わせて活用サイズを変更
- 赤ちょうちんなど、大人が集える場
- 防災訓練(防災ベンチ、かまどベンチ等の活用)



中心性・シンボル性のある駅まえ

すみだの玄関口として、下町らしさや親しみやすさのある顔づくりが望ましい。
空間としての中心性だけでなく、区民活動や情報交換の場、すみだの特色である伝統産業を巻き込んだにぎわいづくりなど、活動の連鎖を生み出す交流の拠点に育てていくことを目指します。



<ワークショップで出されたアイデア>

- シンボルツリー
- 待ち合わせ場所となるシンボル性のあるもの
- シンボリックな築山(防災倉庫)
- 地域活動等の情報発信
- 墨田区の伝統産業に関連するイベント
(職人が作った工芸品の展示、販売)
- 地域の案内所
- 移動拠点(シェアサイクル、コミュニティバス)
- 子ども・障がい者が移動しやすいインクルーシブな空間
- スカイツリーの撮影スポット
- 駅前広場側に顔を向けた高架下施設
(保育園、コミュニティカフェなど)
- まちの案内サイン